

こたえ と かいせつ

Q 136 第二次世界大戦後、アメリカを中心とする西側陣営（資本主義・自由主義）と、ソ連を中心とする東側陣営（社会主義・共産主義）との間で、直接的な武力衝突は避けながらも、政治・経済・軍事・イデオロギーの各面で続いた厳しい対立状態を何というでしょう？

こたえ 2 冷たい戦争
(冷戦)

両陣営は、核兵器による脅威を背景に、直接的大規模戦争（熱い戦争）こそ回避しましたが、軍備拡張競争、宇宙開発競争、代理戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、情報戦、イデオロギー対立などを繰り広げ、世界を二分する緊張状態が長く続きました。

Q 137 1950年から1953年にかけて、朝鮮半島を舞台に、大韓民国（韓国、アメリカなどが支援）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮、中国・ソ連が支援）との間で行われた戦争を何というでしょう？

こたえ 1 朝鮮戦争

北朝鮮軍が北緯38度線を越えて韓国に侵攻したことから始まった、朝鮮半島における戦争です。韓国側をアメリカ軍を中心とする国連軍が支援し、北朝鮮側を中国人民義勇軍とソ連が支援したため、冷戦下の代理戦争の性格を強く帯びました。激しい戦闘の末、1953年7月に休戦協定が結ばれましたが、正式な平和条約は結ばれておらず、現在も朝鮮半島は南北に分断されたままです。この戦争は、日本の戦後復興にとっては、軍需物資の調達などによる「朝鮮特需」と呼ばれる好景気をもたらしました。

Q 138 1972年、日本の田中角栄首相が中国を訪問し、中華人民共和国との間で国交を正常化した共同声明は何でしょう？

こたえ 3 日中共同声明

日本と中華人民共和国は、第二次世界大戦後長く続いていた国交のない状態を終え、正式に国交を樹立（国交正常化）しました。日本は、中華人民共和国政府を中国の唯一の合法政府として承認し、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であるという中国の立場を理解し尊重すると表明しました。これに伴い、日本と中華民国（台湾）との間の外交関係は断絶しました。

Q 139 日本の都道府県や市町村などが、自分たちの地域のことを、国の指示に頼らず、自分たちの判断と責任で決定し、実行していくという原則を何というでしょう？

こたえ 2 地方分権

これまで国（中央政府）に集中していた権限や財源を、地方公共団体（都道府県や市町村）に移し、地域住民に身近な行政は、できる限りその地域の地方公共団体が自主的に判断し、責任を持って行えるようにしていくという考え方や改革のことです。地域の特色を生かした、住民のニーズに応じた多様な行政サービスを実現することを目指しています。日本国憲法にも「地方自治の本旨」として、団体自治と住民自治が保障されています。

Q 140 すべての人が、年齢や性別、障害の有無、文化の違いなどにかかわらず、お互いを尊重し、支え合いながら、個性や能力を発揮して活躍できる社会を目指す考え方を何というでしょう？

こたえ 2 共生社会
(多文化共生)

日本に住む外国人が増える中で、異なる文化を持つ人々がお互いの文化を尊重し合いながら共に生きていく「多文化共生（たぶんかきょうせい）」の考え方も重要になっています。バリアフリーやユニバーサルデザインの推進も共生社会の実現に向けた取り組みの一つです。

Q 141 鎌倉幕府が滅んだ後、後醍醐天皇が一時的に天皇中心の政治を復活させようとしたことが、短期間で失敗に終わった政治を何というでしょう？

こたえ 1 建武の新政

天皇や公家を重視する政策をとりましたが、鎌倉幕府を倒すのに功績のあった武士たちへの恩賞が不公平であったり、現実離れた政策が多かったりしたため、武士たちの不満が高まりました。その結果、有力武将であった足利尊氏（あしかがたかうじ）が離反し、新政はわずか2年余りで崩壊しました。その後、日本は南北朝時代という動乱期に入ります。

Q 142 室町時代に、京都の北朝と、吉野（奈良県）の南朝に朝廷が分かれて対立していた約60年間の動乱期を何というでしょう？

こたえ 1 南北朝時代

日本の歴史区分の一つで、おおむね14世紀の中頃（1336年～1392年）を指します。建武の新政が崩壊した後、足利尊氏が擁立した光明天皇の北朝（京都）と、京都を追われた後醍醐天皇の南朝（吉野など）という、二つの朝廷（天皇）が並び立ち、全国の武士も両派に分かれて争った動乱の時代です。この争いは、室町幕府の三代将軍・足利義満のときに、南北朝の合一（統一）が実現するまで約60年間続きました。

Q 143 江戸時代、現在の大阪にあった、全国各地の米や特産物が集まり、取引されたことから「天下の台所」と呼ばれた市場があった場所はどこでしょう？

こたえ 2 大坂（堂島・中之島）

江戸時代の大坂（おおさか、現在の大阪）は、全国の物流の中心地として、「天下の台所」と呼ばれるほど繁栄しました。特に、堂島（どうじま）には諸藩の蔵屋敷（くらやしき、年貢米や特産物を保管・販売する倉庫兼事務所）が集中し、全国の米相場の基準となる米市場（堂島米会所）が開かれ、活発な取引が行われました。また、中之島（なかのしま）周辺にも様々な物資が集まり、大坂は日本の経済を支える重要な都市でした。

Q 144 江戸時代の元禄文化（17世紀末～18世紀初め）を代表する作家で、『好色一代男』などの浮世草子（うきよざうし、町人の生活や風俗を描いた小説）を書いたのは誰でしょう？

こたえ 3 井原西鶴

江大坂出身の浮世草子作家・俳諧師です。町人の経済活動や恋愛沙汰、武士の生活などを、現実的かつユーモアを交えて生き生きと描きました。代表作には、町人の様々な生き様を描いた『好色一代男（こうしきよいちだいおとこ）』『日本永代蔵（にっぽんえいたいぐら）』『世間胸算用（せけんむねざんよう）』などがあり、当時の社会を知る上で貴重な資料ともなっています。彼は、松尾芭蕉、近松門左衛門とともに元禄文化を代表する人物とされています。

Q 145 江戸時代の元禄文化を代表する劇作家で、『曽根崎心中』などの人形浄瑠璃（にんぎょうじようり、文楽）や歌舞伎の脚本を数多く書き、「日本のシェイクスピア」とも呼ばれるのは誰でしょう？

こたえ 2 近松門左衛門

江戸時代前期の元禄期に活躍した、人形浄瑠璃および歌舞伎の脚本家（作者）です。武士の世界を描いた時代物や、町人の世界で実際に起こった事件などを題材にした世話物（せわもの）を数多く手がけ、登場人物の心情を深く掘り下げた人間ドラマは、多くの人々の共感を呼びました。代表作に、人形浄瑠璃の『曽根崎心中（そねざきしんじゅう）』や『国性爺合戦（こくせんやがっせん）』などがあり、日本の演劇史に大きな足跡を残しました。

Q 146 江戸幕府が直接支配した重要な土地のことを何というでしょう？

こたえ 1 天領（幕領）

江戸時代に、大名に与えられずに江戸幕府が直接支配した土地のことです。江戸、京都、大坂、長崎などの重要な都市や、佐渡金山、石見銀山などの鉱山、主要な街道筋などが天領とされました。これらの土地は、幕府の財政収入源として、また全国支配の拠点として非常に重要でした。天領の管理は、代官（だいかん）や奉行（ぶぎょう）と呼ばれる幕府の役人が行いました。

Q 147 明治時代に活躍した思想家・教育家で、『学問のすゝめ』を著し、「天は人の上に人を造らず、人の下の人に人を造らず」という言葉で、人間の平等と学問の重要性を説いたのは誰でしょう？

こたえ 2 福沢諭吉

幕末から明治時代にかけて活躍した日本の代表的な啓蒙思想家、教育家、慶應義塾の創設者です。彼は、欧米の事情を日本に紹介し、封建的な身分制度を批判し、個人の独立と学問（実学）の重要性を説きました。著書『学問のすゝめ』の冒頭にある「天は人の上に人を造らず人の下の人に人を造らずと言えり」という一節は、人間の平等を訴える言葉として非常に有名です。彼の思想は、明治の日本の近代化に大きな影響を与えました。

Q 148 日清戦争後、勝利した日本が下関条約で清から譲り受けたものの、ロシア・ドイツ・フランスの三国の要求によって清に返還せざるを得なくなった半島はどこでしょう？

こたえ 2 遼東半島

中国東北部の南端に突き出した半島です。日清戦争に勝利した日本は、講和条約である下関条約で、この遼東半島を清から譲り受けました。しかし、ロシアが南下政策を進める上でこの地域を重要視していたため、ドイツ、フランスとともに日本に対して遼東半島を清に返還するように強く要求しました（三国干渉）。当時まだ国力が十分でなかった日本は、この要求を受け入れざるを得ませんでした。この出来事は、日本国民の対ロシア感情を悪化させ、後の日露戦争の一因となりました。

Q 149 1901年に、官営の製鉄所として福岡県に設立され、日本の重工業の発展の基礎となったのは何でしょう？

こたえ 1 八幡製鉄所

日清戦争の賠償金などを用いて、日本の鉄鋼生産能力を高めることを目的に、1901年に福岡県八幡村に設立された官営（国営）の製鉄所です。ドイツなどから最新技術を導入し、日本の近代的な鉄鋼業の基礎を築きました。ここで生産された鉄は、鉄道、船舶、兵器などの製造に使われ、日本の産業発展と富国強兵政策を支える上で極めて重要な役割を果たしました。第二次世界大戦後は民間化され、現在は日本製鉄の一部となっています。（関連施設は世界文化遺産に登録）

Q 150 大正デモクラシーの時代に、男女平等の実現や女性の社会的地位向上、女性参政権の獲得などを目指して活動した女性解放運動家で、雑誌『青鞥（せいとう）』を創刊したのは誰でしょう？

こたえ 3 平塚らいてう

大正・昭和期の女性解放運動家、思想家、作家です。1911年（明治44年）に、女性による文芸雑誌『青鞥』を創刊し、「元始、女性は実に太陽であった」という有名な宣言を発表しました。これは、封建的な家制度の中で抑圧されていた女性の才能を開花させ、自己を主張することの重要性を訴えるものでした。『青鞥』は、多くの女性知識人に影響を与え、日本の女性解放運動（婦人運動）の先駆けとなりました。彼女はその後、新婦人協会を結成するなど、女性の地位向上や平和運動に尽力しました。